

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	かぶしがいがいしゃ でんとうげいのうおふいす 株式会社 伝統芸能オフィス	団体ウェブサイトURL	
代表者職・氏名	代表取締役 中坪眞		
制作団体所在地	〒 221-0822 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-15-2 パーソナルハイツ東白楽101	最寄り駅(バス停)	東白楽
電話番号	045-324-3421		
ふりがな 公演団体名	いっばんしゃだんまうじん みやけきょうげんかい 一般社団法人 三宅狂言会	団体ウェブサイトURL	
代表者職・氏名	代表理事 三宅右近(和泉流狂言方)		
公演団体所在地	〒 176-0021 東京都練馬区貫井3-22-3	最寄り駅(バス停)	富士見台駅
制作団体 設立年月	昭和51年4月		
制作団体組織	役職員 代表取締役 中坪眞 取締役 中坪一世	団体構成員及び加入条件等 40名(落語家、狂言師、音楽家など) 制作スタッフ:13名 舞台スタッフ:10名	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	中坪眞
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	中坪一世
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	nakashin@dentougeinou.com		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>●(株)伝統芸能オフィス(通称・日本伝統芸能を守る会)・沿革 ○昭和43年糸あやつり人形結城系女子一座(ゆうきしめこ) 沖縄公演(沖縄復帰以前)に ○昭和47年全国の小中学高校の児童生徒対象に日本の伝統芸能(落語、能狂言、邦楽など) 芸術鑑賞教室を始める。落語は学校寄席、わんぱく寄席で定着 狂言は和泉流、大蔵流で狂言鑑賞教室を全国展開。 昭和51年4月 株式会社ナカシン設立。 昭和64年 横浜博覧会、名古屋デザイン博、岐阜未来博の制作に携わる 平成 8年 江戸東京博物館こけら落とし公演 芸能屋台村企画江戸芸能時空旅行「Back To The Edo ～バック・トゥ・ザ・江戸～」 平成 9年 創立25周年を迎える 平成11年 国際交流基金の派遣で中南米各国において「芸能屋台村」を公演 平成12年 文化芸術祭「芸能屋台村」で参加 平成14年1月 株式会社伝統芸能オフィスに社名変更 通称「日本伝統芸能を守る会」 平成14年 国際交流基金派遣で三味線と和太鼓の公演(ごちえもん) 平成23年 ILO(国際労働機関)京都会議へ狂言で参加 令和 4年 創立50周年を迎える</p> <p><受賞歴> 平成16年 アフリカ民族音楽「アフリカンドリーム」厚生労働省社会審議会児童福祉文化財に推薦 平成19年 「わんぱく寄席」厚生労働省社会審議会児童福祉文化財に推薦 平成25年5月「わんぱく寄席」厚生労働省社会審議会児童福祉文化財に推薦 平成25年5月日本伝統芸能を守る会 長年にわたって 日本の伝統芸能を子どもたちに普及し、 児童の健全育成に貢献してきた活動にたいして 厚生労働省児童福祉文化財特別部門受賞 令和4年12月 代表の中坪眞が永年にわたり、子どもたちに伝統芸能を普及させてきた活動 に対して「文化庁長官表彰」受賞</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>昭和47年より現在まで10000校以上 年間150校の学校での公演実績</p> <p>文化庁 平成17・18年「本物の舞台芸術体験事業」 文化庁 平成20年21年22年「本物の舞台芸術体験事業」 文化庁 平成23年「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」 文化庁 平成25年「次代を担う子供の文化芸術体験事業」 文化庁 平成26年「次代を担う子供の文化芸術体験事業」 文化庁 平成27年「文化芸術による子供の育成事業」 文化庁 平成28年「文化芸術による子供の育成事業」 文化庁 平成29年「文化芸術による子供の育成事業」 文化庁 平成30年「文化芸術による子供の育成事業」 文化庁 令和元年「文化芸術による子供育成総合事業」 文化庁 令和2年「文化芸術による子供育成総合事業」 文化庁 令和3年「文化芸術による子供育成総合事業」 文化庁 令和4年「文化芸術による子供育成推進事業」 文化庁 令和5年度「文化芸術による子供育成推進事業 舞台芸術等総合支援事業 学校巡回公演」 文化庁 令和6年度「学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業 舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」</p>		
<p>特別支援学校等 における公演実績</p>	<p>北海道余市養護学校しりべし学園分校 香川県立善通寺養護学校 横須賀市立ろう学校</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://www.youtube.com/watch?v=SrlThg-key4</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
		<p>PW:</p>	

別添	あり
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 一般社団法人 三宅狂言会 】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○

企画名	児童生徒が創り上げる 狂言「茸(くさびら)」
-----	------------------------

企画のねらい	<p>この狂言「茸」の主役は児童・生徒達です。狂言師と子どもたちがワークショップでお稽古をし、本公演の舞台で出演者、児童・生徒、先生が共演します。また、主演の子どもたちだけでなく、観客の児童・生徒全員が公演に参加して世界に一つしかない舞台を創り上げます。</p> <p>お稽古の過程で、児童・生徒同士で教えたり教え合ったりしながら、お互いのコミュニケーション能力を高めることができ、一つの物事をやり遂げる達成感を得ることもできます。観客の児童・生徒は、自分の友だちや知り合いが舞台に出ていることで、より親近感がわき、狂言をもっと身近に感じることができます。</p> <p>最初は小さな声だった児童・生徒がお稽古を終えるころには、大きな声で自然とあいさつができるようになり、そのお稽古の様子を見ていた先生も狂言師の真剣なお稽古の様子を見て自然と背筋を伸ばして正座をしながら児童生徒の練習を見守っています。</p> <p>本公演では、児童・生徒は装束を身につけ、自分でつくった「面」をつけて舞台に登場します。自分で想像したオリジナルのキノコの面を作ることによって想像力と表現力を身につけることができます。</p>
--------	--

演目概要・演目選択理由	<p>1.狂言の解説 はじめて狂言にふれる児童・生徒にわかりやすく狂言の解説を行います。</p> <p>2, 狂言鑑賞『盆山 ぼんさん』 【特色】狂言の特色である、所作、セリフ、擬音など総てが盛り込まれた作品で、初めて狂言を鑑賞する人に適した演目。 想像力を補いながら舞台を楽しむことができるシンプルながらわかりやすい演目です。 日本語の特徴である擬音(オノマトペ)がふんだんに使われているため、児童・生徒にもわかりやすい内容になっています。室町時代の擬音と今の擬音とは少し違っていることにも注目してみると、時代によって日本語が変化していることに気づけます。</p> <p>3, 狂言体験～私たちは1日狂言師～ より狂言に親しんでもらうために、狂言のセリフや擬音、動物の鳴き声などを全校生徒で体験していただきます。 また、全員で謡『兎(うさぎ)』を大きな声で謡います。希望される場合は、謡にあわせて児童・生徒数名が兎のかわいらしい動きを表現しながら小舞を舞います。</p> <p>4, 狂言鑑賞『茸 くさびら』—大勢狂言— 児童生徒たちとの共演 【特色】 狂言『茸』はたくさんの出演者が登場する「大勢狂言」の中のひとつで、和泉流では「茸(くさびら)」と表記しますが、大蔵流では、「菌(くさびら)」と表記するなど、とてもポピュラーな演目です。 今回の『茸』では、児童生徒12名が主役の茸役、先生が鬼茸役となって、狂言師との共演します。 主演する児童・生徒だけでなく、観客の児童生徒全員で世界にひとつの舞台を創り上げます。</p> <p>児童・生徒の表現するキノコが動き廻る姿は観客の笑いをさそい、表現することの面白さを味わうことができます。 本物の狂言師が共演することは、多感な時期の児童・生徒にとってめったに得られることのない貴重な体験になり、狂言への興味や印象を一層深く残すものとなることでしょう。 そしてこの舞台がきっかけとなり、将来の文化の担い手や、観客が増えることを期待しています。</p> <p>【演目選択理由】 狂言はユネスコ無形文化遺産の第一号として登録されており、伝承すべき日本の文化の一つです。 「狂言」などの伝統芸能は難しいと思われていますが、順応性のある児童・生徒は、わからない言葉があっても役者の動きや表情を読み取って理解し、狂言独特の空気を自然と感じ取って楽しむ能力があります。 今回は特に児童・生徒達にわかりやすい演目『盆山』と、児童・生徒と狂言師が共演して創り上げる『茸』の2つの演目を選びました。</p>
-------------	--

児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>○狂言「茸」で狂言師と共演……事前ワークショップで狂言「茸」のお稽古をし、本公演で披露します。 ※ 狂言師は礼儀の仕方からはじまり、真剣に児童・生徒たちと向き合って指導します。 この共演で、一つのを完成させるという目標のもと、指導者と児童・生徒が一丸となって稽古します。</p> <p>○ 全員参加一狂言の基本所作を学ぶ(礼儀作法、あいさつ) 狂言のセリフを実際に体験 狂言の謡「兎(うさぎ)」を謡う(希望者は小舞を披露)</p>																																		
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	12名～全員																																
		鑑賞人数目安	700名																																
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>第1部 1、狂言解説 ～狂言ってなんだろう?～ 2、狂言『盆山 ぼんさん』</p> <p>3、狂言体験 ～私たちは1日狂言師～ +++++ 休 憩 (15分)+++++</p> <p>第2部 4、狂言『茸 くさびら』—大勢狂言— 児童生徒たちとの共演 出演: 三宅狂言会 キノコ役…児童生徒12名 鬼茸役…学校の先生</p> <p>※ 監修 振り付け……三宅右近(和泉流狂言方) ※ 企画原案 演出 脚本 構成……なかつぼ まこと</p> <p>狂言「盆山」 【あらすじ】 室町時代は「盆山(盆の上に岩を置いた置物)」が大流行。この盆山を一つも持っていない男が、ある夜、友達の屋敷に忍び込んで盗もうとします。ところが大きな物音を立ててしまい、あっという間に見つかってしまいます。盗人が顔見知りだと気づいた友達は大笑い。男を散々にからかってやろうと、色々な動物の鳴き真似をさせるのですが…</p> <p>狂言「茸」 【あらすじ】 とある屋敷に、夜な夜な生えてくる巨大キノコ。気味悪がったお屋敷の主人は霊験あらたかな山伏にお祓いの祈禱を依頼します。さっそく屋敷に赴いた山伏が怪しげな祈禱を始めると、無くなるどころか、どんどんキノコは増え続けます。走りまわるキノコ、イタズラを仕掛けるキノコ。屋敷中がキノコだらけになってしまい、必死になって祈る山伏を尻目に、とうとうおどろおどろしい鬼茸まで登場し…。</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>																																		
出演者	三宅右矩／三宅近成／高澤祐介／前田晃一／吉川秀樹／河路雅義／大塚出／金田弘明など三宅狂言会(和泉流)から5名																																		
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	三宅右矩(重要無形文化財保持者三宅右近の長男 和泉流狂言方 公益社団法人 能楽協会会員) 三宅近成(重要無形文化財保持者三宅右近の次男 和泉流狂言方 公益社団法人 能楽協会会員) 高澤祐介(重要無形文化財保持者 和泉流狂言方 公益社団法人 能楽協会会員) 前田晃一(重要無形文化財保持者 和泉流狂言方 公益社団法人 能楽協会会員)																																		
本公演 従事予定者数(1公演あたり) ※ドライバー等訪問する業者人数含む	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>出演者:</td> <td style="text-align: center;">5 名</td> </tr> <tr> <td>スタッフ:</td> <td style="text-align: center;">4 名</td> </tr> <tr> <td>合計:</td> <td style="text-align: center;">9 名</td> </tr> </table>	出演者:	5 名	スタッフ:	4 名	合計:	9 名	運搬	積載量: 1 t 車長: 5.31 m 台数: 2 台																										
出演者:	5 名																																		
スタッフ:	4 名																																		
合計:	9 名																																		
本公演 会場設営の所要時間(タイムスケジュール)の目安	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2">前日仕込み</th> <th colspan="3">前日仕込み所要時間</th> <th colspan="2">時間程度</th> </tr> <tr> <th>到着</th> <th>仕込み</th> <th>上演</th> <th>内休憩</th> <th>撤去</th> <th>退出</th> <td></td> </tr> <tr> <td>8:30</td> <td>9:00-11:00</td> <td>13:30-15:00</td> <td>15</td> <td>15:00-17:00</td> <td>17時00分</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。</p>					前日仕込み		前日仕込み所要時間			時間程度		到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出		8:30	9:00-11:00	13:30-15:00	15	15:00-17:00	17時00分										
前日仕込み		前日仕込み所要時間			時間程度																														
到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出																														
8:30	9:00-11:00	13:30-15:00	15	15:00-17:00	17時00分																														
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>6月</td> <td>7月</td> <td>8月</td> <td>9月</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19日</td> <td>17日</td> <td>19日</td> <td>16日</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>11月</td> <td>12月</td> <td>1月</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13日</td> <td>18日</td> <td>22日</td> <td>20日</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3"> ※平日の実施可能日数目安をご記載ください。 </td> <td>計</td> <td colspan="2">144日</td> </tr> </table>					6月	7月	8月	9月			19日	17日	19日	16日			10月	11月	12月	1月			13日	18日	22日	20日			※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計	144日	
6月	7月	8月	9月																																
19日	17日	19日	16日																																
10月	11月	12月	1月																																
13日	18日	22日	20日																																
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計	144日																															

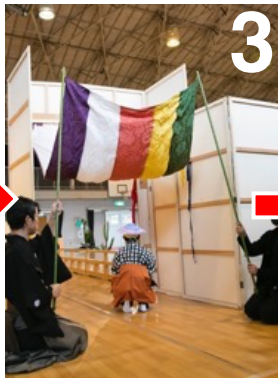


1

(1) 体育館のフロアに舞台を設置した状態。児童・生徒さんたちは間近で舞台をお楽しみいただけます。体育館が狭い場合などは相談しながら臨機応変に対応させていただきます。



2



3



4

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

(2) 舞台の裏側を「茸」役の児童・生徒が着替える楽屋として使用します。公演前に、共演者と挨拶を交わして本番に臨みます。(3) 「茸」役の児童・生徒が舞台へ登場するシーン。

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



公演終了後のカーテンコール。面をとって挨拶をします。すると、あの茸はあの子だったのか！驚きの声があがります。

狂言ミニ
博物館の展示

舞台へ向かう入口に狂言博物館を設置。狂言の装束や『茸(くさびら)』で使う鬼茸の面を展示し、これから始まる狂言の雰囲気を一層高めます



狂言の装束

装束には季節の柄やおめでたい柄など大胆でおもしろい柄がデザインされている。

著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否		該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

あり

【公演団体名 一般社団法人 三宅狂言会 】

ワークショップの
ねらい

<事前ワークショップのねらい>

「自分たちで一つの作品を作り上げる」

この舞台の主演は、児童生徒と先生自身です。鬼茸を先生が演じ、児童生徒が主演となって、実際の舞台で演じる場所に大きな特色があります。

狂言では、お客様に楽しんでもらうために、きびしい稽古を重ねて舞台に出ます。体験する児童・生徒には、一つのことに取り組むことの大切さ、うまくできたときの達成感などを感じていただき、今後何かをやり遂げる時には、この経験を思い出して一つのことをやり遂げる力をつけてもらいたいと思います。

「演技力、表現力を磨く」

児童生徒が演じるキノコはさまざま。ちょこちょこと可愛らしい動きの子のキノコや、しっかりした動きのキノコ。鬼茸役の先生の怖くも威厳のある動き。それぞれ個性的なキノコたちが舞台の上で動き回り、創造性や演じる力を高めることができます。

「共演で得られるもの」

各学年から参加児童・生徒がそれぞれ集まり一つのことをやり遂げる。すると、参加児童同士が自主的に教え合い、高学年の児童が低学年の児童をフォローするなどコミュニケーションが生まれます。

また自分自身の個性を磨くだけでなく、他の人の動きを観察して、自分との違いを研究するなど自分を客観視することもできます。

お互い協力して舞台を作り上げることで、チームとしての団結力が深まるばかりではなく、他の人よりも、もっと大きな声を出そうなどの、いい意味での対抗意識が生まれ、物事に取り組む意欲が高まる効果があります。

指導者は児童生徒と真剣に取り組めます。児童生徒はその期待に答えようと一生懸命取り組んで、お互いの信頼関係が築き上げられます。このことは、学習指導要領の特別活動の項目にあてはまります。

「想像力・製作力が高まる」

自分の想像力を駆使して、キノコの「面」をつくります。児童生徒の自由な発想でデザインしたものは面白く、舞台をより一層豊かにさせることができ、児童・生徒それぞれの個性を表現する力が高まります。先生、友達、家族の方々と話し合いながらオリジナルの「面」づくりを楽しみながら作成しましょう。

※ 説明書はあくまでも作り方の一例としてお渡しします。作る素材も自由に考えさせることで面白いものが出来上がります。(児童生徒の自由な発想を大事に)

<本公演>

「狂言の楽しさを全員で体験する」

児童生徒に、実際の狂言の舞台を体験してもらうことで、表現力、想像力を豊かにし、伝統芸能をより身近に感じることができます。稽古の前にはきちんと狂言師とお辞儀をしてお稽古に臨みます。

みんなでうたう、狂言の「謡(うたい)」には、室町時代のことばがそのまま傳承されており、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができます。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

12名～(ご希望の場合は全校生徒も可能です。)
※茸役12名+先生1名 謡『兎』を謡う(全校生徒)

<p style="text-align: center;">ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>ワークショップは次のパターンからご選択いただけます</p> <p>その1 キノコ役12名+鬼茸役先生1名参加……………狂言『茸』のお稽古(90分) 詳細は別添へ</p> <p>その2 クラスで参加 キノコ役12名+鬼茸役先生1名……………狂言『茸』のお稽古(90分) その他の児童 ………………謡『兎(うさぎ)』のお稽古(45分)</p> <p>その3 全校児童・生徒参加 全校児童・生徒参加……………午前中 みんなで楽しむ狂言体験(午前中45分) キノコ役12名+鬼茸役先生1名……………午後 狂言『茸』のお稽古(90分)</p> <p>みんなで楽しむ狂言教室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, はじまりのあいさつ まずは狂言師と児童生徒がお互いあいさつをして狂言教室の時間がはじまります 2, みんなで狂言体験をしよう 狂言の歴史、成り立ちなどを簡単に解説したあと、 狂言のかまえ(姿勢)、すり足(歩き方)、発声(大声で大笑い)など 狂言の基本所作を全員で一緒に行います 3, 狂言の謡「兎(うさぎ)」を全員で謡い、舞います。 数名(3人～20人)の立候補の児童生徒がいれば、 本公演では狂言の他に舞の発表もしていただけます。
<p style="text-align: center;">その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>(5)「茸」の練習について体育館のフロアーでキノコ役の動きを練習します。しゃがんだ格好のままフロアー内を動き廻りますので 体操着など動きやすい服装(スカート不可)で行います。 鬼茸(おにたけ)役の先生も一緒に練習します。※その他の詳細は別添へ</p>

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
本事業への応募理由	【公演団体名 一般社団法人 三宅狂言会】
<p style="text-align: center;">本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>【生の舞台に触れることの大切さ】 「小学校1年生の児童から楽しめる狂言」をコンセプトに、視点を子ども目線にしたプログラムづくりをしております。 柔軟で好奇心旺盛な児童、生徒のところに本物に触れることで、狂言に限らず他の伝統芸能の生の舞台の迫力とおもしろさを知っていただくきっかけになって、将来のお客様に劇場に足を運んでもらいたい。 伝統芸能は、お客様に育てられていく芸能です。</p> <p>【教科書を読むだけではわからない生の声の迫力】 狂言は約650年前に室町時代からつづく伝統芸能であるとともに、当時のことばがそのまま残っている生きた教科書です。 現在小学校、中学校の教科書に狂言が掲載されておりますが、実際のセリフの言い方などは、本を読むだけではわかりません。 口伝(口づたえ)で伝わってきた狂言のセリフを生で聞くことで、現代の日本語との違い、変化、表現の違い、さらには歴史を知ることができます。</p> <p>【本物の雰囲気味わっていただく】 私たちは、小中学校の体育館で、できるだけ能楽堂の本物の雰囲気を味わっていただくための会場づくりをしております。 本物の衣装を身につけることで着物への興味につなげてもらい、本物の舞台で、狂言師とともにお稽古をし、共演するという貴重な体験を味わっていただきたい。</p> <p>【狂言の体験から見えたもの】 今回の狂言では、児童・生徒、そして先生が主役となり一つの舞台を作り出します。 演技者としての体験を通して、狂言の世界をより深く知っていただくことがねらいです。 実際の舞台に出演した児童・生徒のみなさんの感想に</p> <p>「狂言は喜劇で、楽しい物語ですが、裏でたくさん練習を重ねて上達してやっとならなくて芸ができるのだなと思いました」</p> <p>「練習を積み重ねていくうちに、みんなが笑ってくれたらうれしいなと考えたら楽しくなってきちんと集中して練習に取り組もうと思いました」</p> <p>「私たち七人でやっとならなくて狂言役者さん一人の声の大きさだったことに驚きました」 など、演じる側の児童・生徒から、狂言の世界を知ってもらうことができました。 また、「自分はこんなに声が出せるんだ、次からもっと大きな声を出そう」など狂言の練習で学んだ経験をほかのことへ生かすという前向きな考えが生まれています。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>事前ワークショップの時に担当の先生と打ち合わせ ＜打ち合わせ内容＞ ○電源の位置の確認 ○観客席の位置の確認○舞台の設置位置確認 ○楽屋設置の説明 ○トイレの場所の確認 ○夏、冬の冷暖房について ○搬入口について○登下校の時間帯の確認(登下校時の事故予防のため) ○本公演の進行など ○練習用のDVDをご用意します</p> <p>ステップ3 本番当日 前日に最終確認の電話連絡をいれます。 安全を守るために学校の登下校の時をさけて搬入、搬出します。 進行の最終打ち合わせをいたします。 公演中に地震や火災などの災害が起こった場合は、速やかに避難の誘導を行います。</p>



第1部

1、狂言の解説 ～狂言ってなんだろう？～

初めて狂言、伝統芸能の世界に触れる児童生徒のために、簡単な歴史や、能舞台のしくみ、役割、狂言の衣裳、装束（しょうぞく）、狂言独特の演出方法などを実演をまじえながらわかりやすく解説します

2、狂言鑑賞「盆山ぼんさん」

狂言「盆山」は狂言で表現される基本的な所作（足、手、腰の動き）、



【狂言の特徴】

名乗り……「このあたりの者でござる」など名乗り、自分が何者かを観客に知らせます
道行き……セリフを言いながら能舞台の柱に沿って三角に歩き目的地まで向かう様子
擬音……垣根をのこぎりで切る音、垣根を破る音や動物の鳴き真似をする様子など

演目概要

盆山を見た後は、狂言「茸」に出演する児童生徒をみんなで送ります

狂言「茸」に狂言師として出演する代表の児童・生徒たちが、装束（狂言の衣裳）に着替えるために楽屋へ移動します。みんなで声援をおくりましょう！

3、狂言の体験～私たちも一日狂言師～



全員参加ワークショップ

狂言の基本所作（動き）を学ぶ
狂言に出てくる擬音の世界
みんなで謡い（うたい）を謡おう



◀よろしくおねがいしますとみんなであいさつ
心が引き締まります。

こんなこともやりました 小規模校の場合など

事前ワークショップで、「茸」のお稽古の他に、謡いと小舞を練習して本公演で披露したこともありました。



第2部 4、狂言鑑賞「茸くさびら」～大勢狂言～ 児童・生徒達との共演

児童生徒たちは、狂言の本物の装束（衣裳）を身につけます。
はじめて着る装束に子どもたちの気持ちも高まります。自分たちが想像して作成した面と笠をつけて舞台に立つこの瞬間は、この舞台でしか味わえない一生の思い出に残ることでしょう。

出演前の様子



- 1.出演者が装束を着付け、児童・生徒達に言葉をかけて緊張をほぐす
- 2.自分達でつくった面を付け準備万端
- 3先生が鬼茸として参加するので心強い!
- 4.舞台裏の隙間から観客の様子を伺う
- 5.これから本番。まずは共演者としての挨拶を交わして舞台へ臨む

演目概要

登場人物



児童・生徒12名が
主役のキノコ役と
して出演

茸(くさびら)

児童・生徒12名

鬼茸(おにたけ)

先生

主人

狂言師

山伏

狂言師



「ポーロンポーロン」と山伏が祈禱を唱えますが、どんどんキノコがふえてゆきます
祈禱がやむとびたっと動きをとめるキノコたち



クライマックスでは鬼茸が出てきて……

公演終了後のカーテンコールで挨拶

狂言「茸」の茸役・鬼茸役の稽古

まずは足袋を履いてお稽古します。
最近では足袋を履く機会がほとんど
ないので、履くことにも一苦労します。
これも経験のひとつです。



まずはあいさつして稽古にのぞみます。



茸（くさびら）の動き方の練習。舞台一杯にキノコ達が動き
回り狂言師のセリフにあわせてピタッと動きをとめます。



ワークショップ 実施形態及び内容

鬼茸役の先生の練習
「とっつかもお〜」というセリフを
大きな声を出して言う練習をします

ワークショップ終了後、各自本番までの宿題

本番で使用するキノコ役の面を創作！

ワークショップ終了後、本公演までに舞台出演時に身につける面をオリジナルで作成します。
児童生徒が想像を膨らませて作成した、世界に一つしかない狂言面を作り、狂言の舞台に挑みます。

